

ベニバナ葉エキスのオートファジーに及ぼす効果について発表
～第70回日本薬学会関西支部大会～

株式会社ナガセビューティケア(本社 東京都中央区、代表取締役社長 千葉敏英)は、ベニバナ葉エキスが皮膚培養細胞におけるオートファジーの活性を促進する効果を確認しました。この研究成果を、第70回日本薬学会関西支部大会(オンライン@立命館大学 2020年10月10日)において発表を行いました。

発表タイトル

皮膚培養細胞におけるオートファジーに及ぼすベニバナ葉エキスの影響

【研究背景】

細胞は恒常的に細胞内成分の生産と分解を繰り返すことにより、その機能を維持しています。細胞の機能を担う主要な成分であるタンパク質は、オートファジーと呼ばれる経路によりアミノ酸に分解されます。このオートファジーとは、細胞がもつタンパク質分解経路の1つであり、障害を受けたタンパク質を分解する重要な働きを果たしています(図1)。近年、オートファジーと老化の関係が注目されており、皮膚の老化との関係についても研究が進められています。

紅花は、キク科の1年生草本であり、花は赤色の天然染料として古くから利用され、その葉は、機能性成分であるフラボノイドを多く含んでいることが知られています(図2)。私たちは、NAGASEグループにゆかりの深い紅花に着目し、その葉からフラボノイドを多く含む「ベニバナ葉エキス」を開発しました。

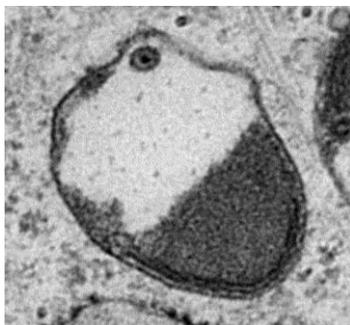


図1 オートファジーの様子
(ヒト皮膚繊維芽細胞)



図2 紅花の葉

【学会発表内容】

紅花の葉から熱水、又は含水エタノールを用いて2種類のエキスを調製しました。ヒト皮膚繊維芽細胞(51歳女性由来)に2種のエキスをそれぞれ添加したところ、含水エタノールエキスに高いオートファジー活性の促進効果が確認されました(図3)。

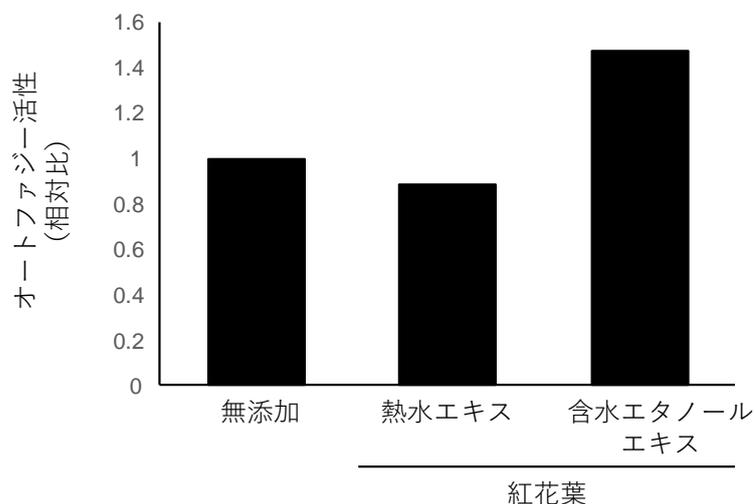


図3 紅花葉の各種エキスによるオートファジー活性の変化

次に、2種のエキスの成分を比較検討したところ、含水エタノールエキスは、より多くのフラボノイドを含んでいることが確認されました。

【まとめ】

紅花の葉から調製したエキスは、ヒト皮膚繊維芽細胞においてオートファジーの活性を促進する効果が確認されました。この作用には、紅花の葉に含まれるフラボノイドの関与が考えられます。本検討により、ペニバナ葉エキスによるオートファジー活性の向上が期待できません。

< この件に関するお問い合わせ先 >

株式会社ナガセビューティケア 広報担当 桑田・小谷内
TEL: 03-3665-3620 FAX: 03-3665-3627 E-mail: pr@nagase.co.jp
HP アドレス <https://nbc.jp>